

「それはあなただ」  
サムエル記下 12 章 1-14 節

ある日、ダビデは一人の女性を一目見て気に入ってしまいます。それはバト・シェバという女性でした。でも、バト・シェバは自分の部下であるウリヤの妻でした。そこで、ダビデは王という立場を利用して、ウリヤをわざと戦闘の激しい戦場へ送り出して戦死させてしまいました。こうしてダビデは、バト・シェバの夫を亡き者にして、正々堂々と彼女を自分の妻として迎えたのでした。

はたから見れば、夫を失った憐れな未亡人とそのお腹の子の世話もして下さる慈悲深い王と映ったかもしれません。しかし、人々の目は騙せても、神さまの目をごまかすことはできませんでした。今日の聖書箇所直前には「ダビデのしたことは主の御心に適わなかった。」(11:27)とあります。この一件で、ダビデは十戒の隣人に対する戒めのすべてを破っています。しかも、それを何とかやり過ごそうとする。それは神さまを侮る大きな罪でした。

そのダビデに対して、神の裁きの時は突然やって来ます。その時、神さまから遣わされてダビデのところに行ったのが預言者ナタンでした。ナタンはおもむろに話し始めました。「ある街に、貧しい男と金持ちの男がいて、ある日、金持ちの男のところに来客がありました。金持ちは、たくさんの家畜を持っていたけど、自分の家畜を屠って料理を振舞うのが惜しくなりました。それで、貧しい男から、その人が持っていたたった一匹の大切な雌の子羊を取り上げて、それを来客に振舞いました」と。

ダビデはその男に激怒し、「そんな男は死刑だ！」と言います。そのタイミングでナタンは「その男はあなただ」(7)と指摘しました。その一言でダビデは何を言われているのかすべて理解したと思います。自分がどれ程の罪を犯したのか。ダビデが犯した罪は、律法に照らしてみれば死罪です。しかも、ダビデはこの時、皮肉にも自らの裁きを自らの口によって明らかにしたのです。

そんなダビデにナタンの口を通して神さまは畳みかけられます。「こんなにも恵みを与え続けて来たではないか。必要なものはすべて与えてきた。不足はなかったはずだ。それなのになぜ、私をあなたどるのか。私に背を向けるか」と。

「なぜ主の言葉を侮り、わたしの意に背くことをしたのか。」(9)。神さまの悲しみの言葉です。嘆きの言葉です。こんなにも私たちの命を尊び、私たちの生活を支え、人生を守ろうとする、なぜその神さまをあなたどるのか。なぜ、神さまと反対の道を進んでしまうのか。私たちにも思い当たることはないでしょうか。

この時、ダビデは何と言ったのでしょうか。「わたしは主に罪を犯した」(13)。これだけです。本当に罪を知らされた時、私たちに言えることはこれしかありません。本当に自分の罪の深さを知らされた時、言い訳なんてできない。ただ罪の告白をすることしか出来ない。そして、この罪の告白、悔いる心無くして、本当に神の御前に立つことはできません。

しかし、そのダビデに対して神さまが言った言葉は、ダビデが思ってもみない言葉でした。「その主があなたの罪を取り除かれる。あなたは死の罰を免れる。」(13)という赦しの言葉だったのです。

だけど神さまは、ダビデの罪を見逃すことは出来ないお方です。神さまは、罪は罪としてきっちりと裁かれます。そうでなければ、神さまの正しさが揺らいでしまいます。そうになると、すべての人を正しく裁く義なる神さまではなくなってしまいます。先ほど言ったように、ダビデの罪は死に値する罪です。その罪の代償は命です。このとき、ダビデの罪の代償として払われたのは、生まれた子の命でした。

こう言われると、あまり良い感情を持たれない方もいらっしゃるかもしれません。罪を犯したダビデが救われるために、なんで罪のない子が命を落とさなければならないのか。子どもは関係ないじゃないか。神さまはそんなに残酷な方なのか。そう思われるかもしれません。もっともな話です。

でも、これはダビデだけの話ではありません。先ほどナタンは、激怒するダビデにたとえを用いて「それはあなただ」と言いました。そして今、聖書は、このダビデの出来事を用いて、罪を犯したダビデが救われるために子どもが死んじゃうなんておかしいと言っている私たちに対して、「ダビデはあなただよ」って言うのです。

ここで言われた「必ず死ぬことになっている子」とは誰でしょう。イエス・キリストにほかなりません。神さまに対して死に値する罪を犯してしまった私たちの身代わりとなって十字架に架かってくださったイエス・キリスト。私たちは、その痛みを忘れてはならないと思います。また、同時に私たちは、イエスさまが何を願って十字架に架かられたのかも忘れてはならないと思います。イエスさまが私たちに願っていることは、幸せになってほしいということです。そのためにイエス・キリストは、世に来られ、十字架に架かられたのです。

私たちの罪は赦されます。しかし、罪は贖わなければならない。私たちの赦しは、イエス・キリストの血によって贖われた高価な赦し、代価を払って買い取られた赦しです。このことを知る時、私たちは、自分が犯してしまった罪の重さと赦された恵みの大きさを忘れずに生きていこうとするのではないのでしょうか。